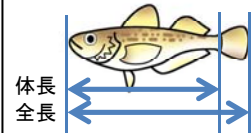


平成30年度沖合底曳網漁期前調査速報 ～鳥取県水産試験場からのお知らせ～

8月20,21日に、青谷から隠岐東方海域の水深199~229mの6点(図1)において、試験船「第一鳥取丸」の着底トロール網を用いてハタハタを主とする底魚類の分布調査を行いました。その結果の概要についてお知らせします。

- 解禁後のハタハタの漁獲量は前年、近年5カ年平均を下回る見込み
- 本調査では隠岐東方(C魚礁北~大瀬)で比較的多く入網
- 魚体は小・小々銘柄(体長10~14cm)、中銘柄(14~18cm)が主体
※近年平均に比べ、大銘柄(体長18cm以上)が少ない



【結果の概要】

ハタハタの分布状況

- 1網当たりの入網重量が100kgを超えた調査点はC魚礁北水深199m(118.5kg)のみ(表1)
- 漁場は北緯36度以北で形成される見込み
- 漁獲物は中銘柄(体長14~18cm)より小さい小型主体となる見込み(図2, 3)
※1歳魚は前年に比べ多いが、3歳魚が少ない
- 2018年の調査によるハタハタの平均入網重量は38.2kg/網で、2017年の同調査地点平均107.3kg/網より大幅に減少し、平年(2013~2017年)の124.6kg/網と比べてもかなり少ない入網となった(表1、図4)
- 2018年1~5月の沖合底びき網(沖底)の漁獲量は725トンと前年同時期の50.7%と低調(資源状態の悪化に加え、例年に比べ漁場形成が遅く、また12年ぶりに山口県見島沖でホタルイカの漁場形成がなされたこともあり、ハタハタ狙いの操業が減少したため)
- 8月8,9日のズワイガニ保護育成礁効果調査の際には、赤碕沖222m(233.0kg/網)、隠岐北東248m(188.8kg/網)で多獲。今回近い海域で試験操業したが、入網重量が減少しており、群れが変わった(高緯度へ移動)と判断

その他の魚種

- カレイ類は、アカガレイ、ヒレグロ(べら、やまがれい)の平均入網重量は平年より増加したが、ソウハチ(えてがれい)は減少した
- 深海性バイ類は、平年より白バイの入網重量は減少したが、赤バイは増加した。エビ類(クロザコエビ:もさえび等)は昨年及び平年より増加した
- 特記事項としては、近年では珍しくホッケ(体長23~28cm)の入網が見られた

エチゼンクラゲに関する情報

今回の調査(6調査地点)においてエチゼンクラゲを3個体確認しました。

担当: 海洋資源室 太田
電話: 0859-45-4500

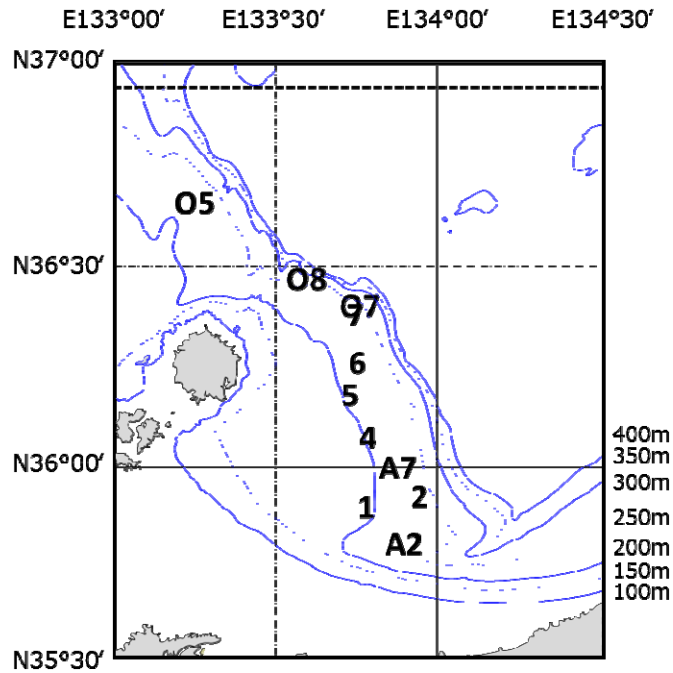


図1 沖合底曳網漁期前調査及びズワイガニ保護育成礁効果調査の調査点

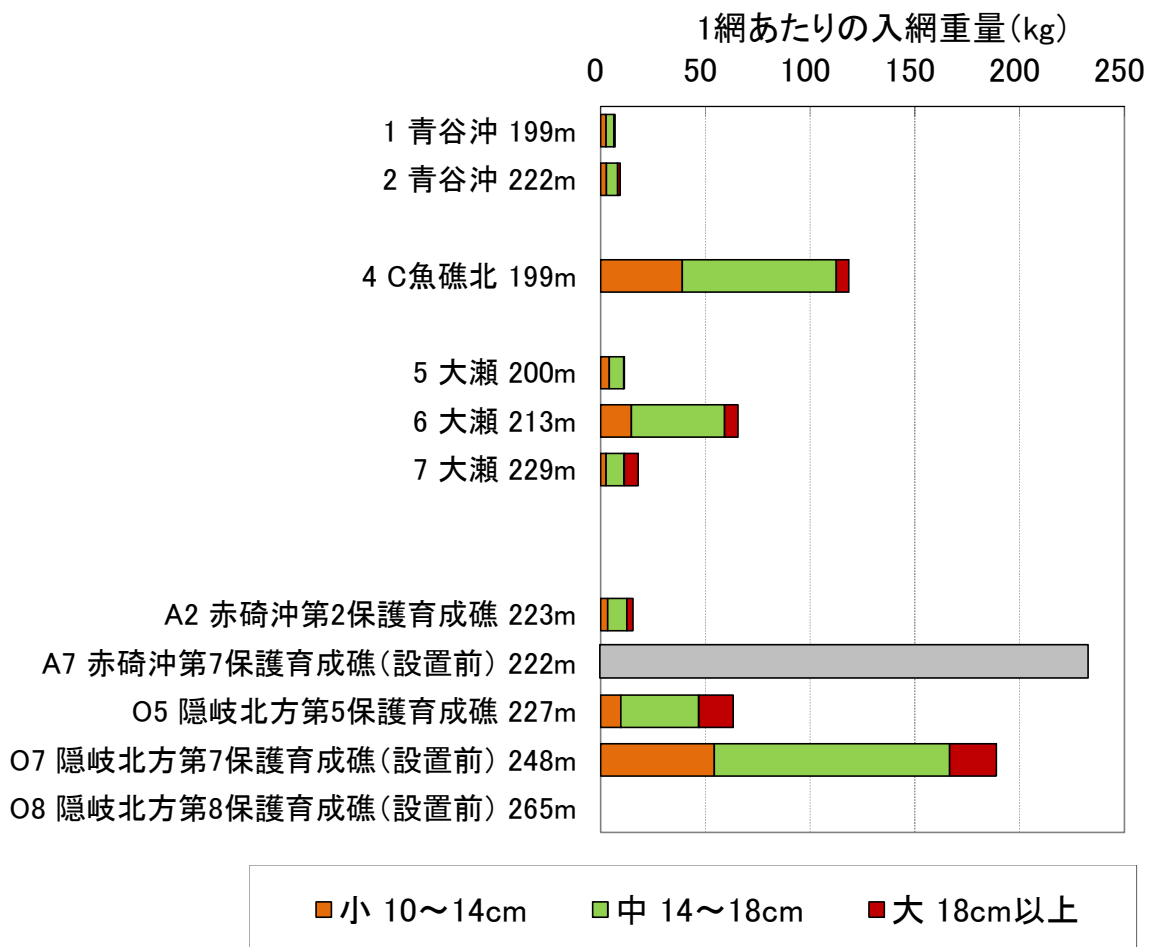


図2 2018年沖合底曳網漁期前調査によって漁獲されたハタハタの調査点別サイズ別漁獲量

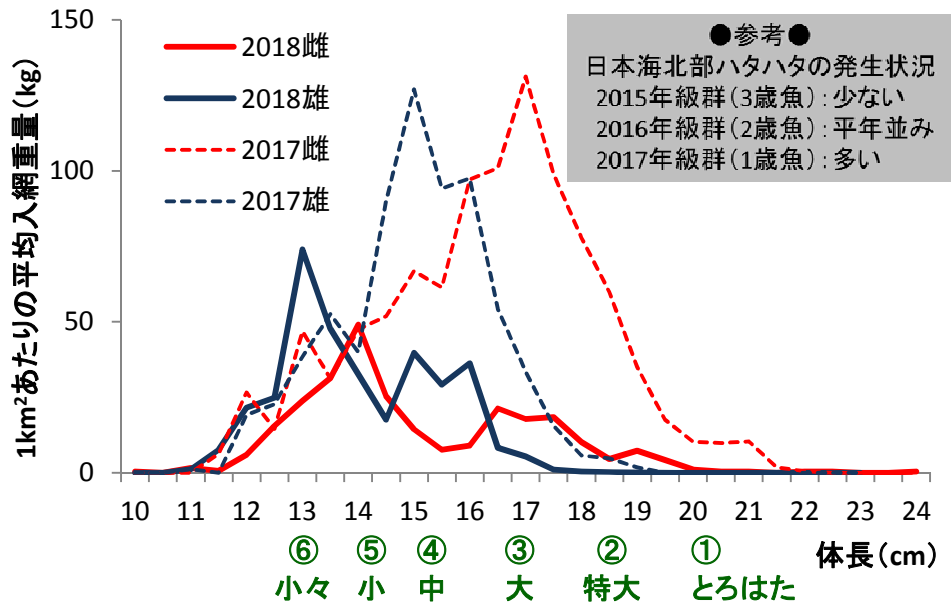


図3 第一鳥取丸によって漁獲されたハタハタの1km²あたりの体長別漁獲量(kg)

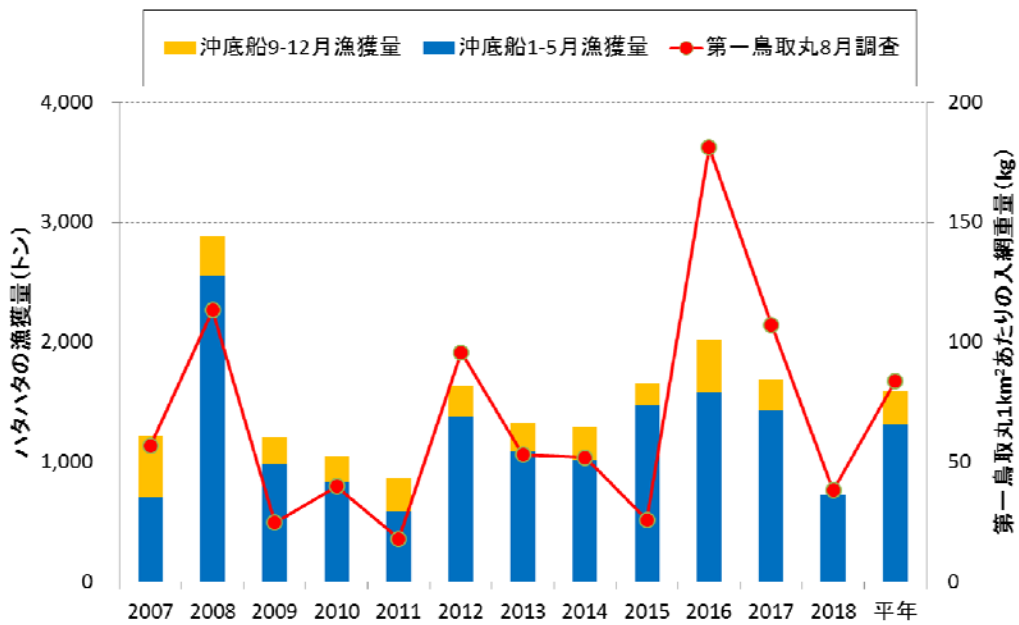


図4 第一鳥取丸によるハタハタの入網重量(折れ線グラフ)と沖底船漁獲量(棒グラフ)の比較